

ハイリスク児とリハビリテーション

High-risk infants and rehabilitation

近年、生物学的・医学的あるいは社会的要因によって生ずる、急性あるいは慢性的な疾患、成長発達上の障害や遅れなどの予後不良のリスクのある新生児（ハイリスク児）の割合が増加している。ハイリスク児の多くは新生児集中治療室（neonatal intensive care unit；NICU）に入院し治療やケアが必要となる。周産期医療の進歩により、早産児の救命率は上昇傾向にあり、特に妊娠 28 週未満の早産児でそれは顕著である。またハイリスク児の多くが NICU を生存退院し、年月を経て年長者は成人となってきている。リハビリテーションの現場でも、ハイリスク児に対応する場面が増えている。本特集では、ハイリスク児にかかわるさまざまな分野の専門家に、その現状と課題を解説していただいた。

ハイリスク妊娠 片山晃久氏ら 1033

近年、ライフスタイルの変化とともに晩婚化が進み高齢妊娠の割合が増加している。また医療の進歩に伴い生殖補助医療による多胎妊娠の割合は増加し、合併症をもつ女性が妊娠できる機会が増えている。本稿では、早産や低出生体重児の発達・予後に始まり、妊娠高血圧や子宮内胎児発育不全などさまざまなハイリスク妊娠について解説している。

ハイリスク児の評価 儀間裕貴氏ら 1039

ハイリスク児に対する適切なフォローアップ・早期療育介入要否の判断が重要となる。その介入指標として主に神経学的成熟度評価や運動・行動評価が用いられている。本稿では、これら評価方法の特性を解説し、それぞれの評価方法に関する近年の研究や知見を紹介し、ハイリスク児の評価において大切な視点について解説している。

NICU における新生児のリハビリテーション 井上 彩氏 1047

国立成育医療研究センターは、リスクの高い母体や胎児、新生児に対する高度な医療を提供している総合周産期母子医療センターであり、NICU には、さまざまなハイリスク新生児が入室し、集中治療・管理が行われている。ハイリスク新生児に対する NICU でのリハビリテーションは、その内容だけでなく、予後予測とそれに基づいた適切なフォローの継続・移行が求められる。本稿では、NICU 入院中から外来、在宅や地域へのリハビリテーション移行を含めた同センターの取り組みを紹介している。

乳幼児期の発達における睡眠 豊浦麻記子氏 1053

乳幼児期における睡眠は、発達途上の脳が成熟するために必要な神経生理学的な活動である。乳幼児の適切な睡眠を理解することは、子供の健康な心身の発達と家族の精神衛生をサポートするために重要である。本稿では、発達過程における睡眠の変化、発達初期における睡眠の意義、乳幼児期の慢性不眠障害とハイリスク児の睡眠障害について解説している。

ハイリスク新生児の長期フォローアップ 笛木 昇氏 1061

治療やケアが必要であったハイリスク新生児も、思春期、成人期まで生存することが期待できるようになり、慢性疾患や障害をもっている、その子がその子らしく生きていくために、多職種で支援し、合理的配慮を行える社会の構築が求められている。本稿では、小児期発症慢性疾患患者の移行医療、学童期までの自立支援と家族支援、思春期以降のリハビリテーションの役割、ハイリスク児の地域での生活環境作りなどについて解説している。

書評	整形外科レジデントマニュアル 第2版 (評者：中島康晴) 1074
	QOLを高める 認知症リハビリテーションハンドブック (評者：網本 和) 1110
お知らせ	第31回日本疫学会学術集会プレセミナー2021 研究の育て方—ゴールとプロセスの「見える化」 1052